

福島潟における人々の地域活動と心象風景に関する研究

1X15D074-8 松園 信*

Shin Matsuzono

湿地と人々の関わり方は、人々の生活様式や産業構造とともに変化してきた。現在、湿地は多様な主体によって保全が議論されており、特に「潟」と呼ばれる湿地が数多くある新潟では、人々との関わりの中で保存されてきた「里潟」という観点から、その現代的価値を見出す取り組みがなされている。本研究では、福島潟における地域活動の内容、および福島潟の風景の構成要素をヒアリング調査によって把握した。その結果、福島潟において持続的な地域活動が可能となっている要因、および福島潟での地域活動に関わる人々の心象風景の特性を明らかにした。

Keywords : 潟、福島潟、心象風景、地域活動、新潟市

1. 研究の背景と目的

1.1 研究の背景

(1) 湿地の歴史

湿地に関する条約である「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」（以下「ラムサール条約」）の冒頭¹⁾では、湿地が「人間とその環境とが相互に依存している」こと及び「経済上、文化上、科学上及びレクリエーション上大きな価値を有する資源である」ことが述べられており、現在は様々な場でその保全やマネジメントの方法が議論されている。

しかしながら2016年に環境省は、農耕と放牧の増加などによる土地利用の大きな変化、ダムや水路・運河などのインフラ開発による水の流れの改変、大気汚染・水質汚濁・過剰な栄養分の流入のために、1900年以来世界の湿地の64%が消失²⁾していると発表した。かつて湿地は洪水のコントロールや炭素の蓄積を行い、人々の生物資源の獲得の場としての役割を果たしてきたが、時代の変化とともにより効率的な農耕のために干拓されたり、効果的な治水のために河川の流路変更がなされ水面が減少するなどして、その形態は変化してきた。この形態の変化によって、人々の湿地への関わり方もまた変わってきたと考えられ、自然環境面だけに留まらず人々との関わりを含めた湿地の多角的な価値を見出すことが、その保全やマネジメントの方法を議論する上で重要であると考えられる。

(2) 新潟の「潟」への取り組み

日本においては、新潟県で越後平野に数多く存在する、「潟」と呼ばれる湿地の現代的な価値を見出す取り組みが行われている。潟も世界の湿地の社会的位置付けの変遷と同じく、暮らしや生業の場から多くの動植物が生息する憩いの場や活動の場にゆるやかに変化し、現在では新潟におけるふるさとを象徴する存

在として位置付けられている³⁾。特に新潟市では潟について自然環境面だけでなく、歴史や暮らし・文化、潟の利活用や周辺の整備など潟に関する様々な分野について中立的な第三者の視点に立ち、総合的に調査・研究することを目的とした潟環境研究所を設立し、調査・研究の成果や潟の広報活動を行っている⁴⁾。また、潟環境研究所が2016年度に公表した活動報告書の中で提言した「人間と自然が共生する都市『ラムサール条約都市・新潟』構想」を背景に、潟環境研究所とGSデザイン会議⁵⁾が「新潟市ラムサール条約都市・新潟構想研究委託業務報告書」の中で未来に承継されるべき潟の価値や2050年頃を想定した潟の将来像を構想し提示するなど、潟の保全と利活用に関する議論は近年新潟市で盛んになっている。

1.2 研究の目的

このような背景のもと、本研究では潟と呼ばれる湿地の形態の変化に伴う、認識や利用を含めた人々の潟との関わりの変化に着目する。新潟市内の潟のうち、潟を再び元の姿に戻すという計画が進行中であり、同時に豊かな生態系と様々な立場の人々による潟への関わりや活動がある福島潟について、潟に関連する地域住民・地域活動団体の活動、さらに地域活動に関わっている人々の見ている風景やその記憶（心象風景）の特性を明らかにすることを本研究の目的とする。

2. 研究概要

2.1 既存研究の概要

(1) 福島潟等新潟県の潟に関する既存の研究

斎藤⁶⁾は検地図などの古地図を比較することによって、福島潟の自然的要因による形態の変化、並びに土地利用の変遷から当

時の人々が潟でどのように生業や暮らしを営んでいたか、人々が生業や暮らし・治水の為に潟をどのように変えてきたかを明らかにした。佐々木ら⁷⁾は同じく福島潟について、活動を行う市民に対するヒアリングを行い、潟をめぐる地域活動団体の特徴と、今後の地域の水系インフラマネジメントに関する議論の論点を示している。

(2) 新潟市潟環境研究所の既存の研究

潟を対象とした研究は、新潟市が2014年に設立した潟環境研究所を中心に分野を問わず行われている。活動内容や調査・研究の成果をまとめた活動報告書⁸⁾を始めとして潟に関連するさまざまな情報を発信しており、越後平野における地域学をまとめたものとして潟に関連するトピックを分野横断的に掲載した書籍⁹⁾も刊行している。

(3) 人々の風景の認識（心象風景）に関する既存の研究

山口ら¹⁰⁾は、以前に伝統的な家屋や工場が数多く存在した東京都墨田区の住工混在地域を対象に、その地域に長年居住してきた人々が抱く身近な街並みに対する記憶や生活史をヒアリングによって抽出した。また、小浦ら¹¹⁾は、阪神淡路大震災の被災地の一つである大阪府芦屋市の住民を対象に日常風景に関するヒアリングを行い、その結果から日常風景を要素化してKJ法によって構造化した。

2.2 研究の位置付けと方法

(1) 研究の位置付け

本研究は対象地を福島潟とし、人々の潟に関連する地域活動や行政の施策やマネジメント・位置付け、福島潟における風景の記憶（心象風景）をヒアリングによって整理するものである。心象風景に関する研究は主に山口ら¹⁰⁾や小浦ら¹¹⁾のような住宅地や工業地域を対象にしたものが多く、特に湿地に関する研究は見られない。本研究は佐々木らの研究⁷⁾を発展させる形で、さらに潟の風景に対する人々の認識にも焦点を当て、福島潟の地域活動に関係する人々の心象風景の特性を明らかにするという点で、他の研究と異なる。

(2) 研究の方法

本研究は、新潟市潟環境研究所¹²⁾によって「(狭義の)潟の環境を成り立たせる自然の地形、水系」及び「自然環境において関係し合う多様な主体(生物、人間)」の総体とされている「潟」を対象とし、関連する地域住民・地域活動団体等の活動を整理し、変化してきた風景との関係性を明らかにすることを目的としている。そのため、まず対象地の地勢や歴史、および周辺施設などの情報について整理、把握する。次に、福島潟に関わる主体へのヒアリング調査を行い、地域活動の経緯や概要および、福島潟の風景について、昔の風景、今ある風景、変化した風景などについ

て聞き取りを行う。聞き取りはどちらも対象者の記憶を自由に想起させられるよう、自由発話形式のインタビューの形をとる。この結果をもとに考察を行う。

3. 福島潟とその周辺施設の概要

3.1 福島潟の概要



図 3.1 「ビュー福島潟」より見る福島潟（2018年7月撮影）

福島潟は新潟市北区と新発田市にまたがって位置する約262haの淡水湖であり、新潟市内の潟の中では最大の面積を持つ潟である。潟には福島潟南東部の五頭山脈・笹神丘陵周辺を水源とする13本の河川が流入しており、流入した河川の水は新井郷川へ流出し新井郷川排水機場を介して日本海に至る。増水時には2003年に竣工した福島潟放水路からも河川の水を流下させている¹³⁾。潟周辺は江戸時代から昭和時代末期に段階的な干拓を経て形成された水田であり、水鳥の採餌の場ともなっている。潟の北岸には水の駅「ビュー福島潟」や自然観察施設が立地し、これらの施設からは五頭山脈を遠景に福島潟を一望することができる。国の天然記念物であるオオヒシクイの日本一の越冬地であり、オニバスの国内の自生の北限としても知られる¹⁴⁾。

3.2 福島潟の歴史

福島潟は、砂丘により阿賀野川などの河川の流れが遮られ、砂丘列の内陸側に徐々に土砂が堆積して1,000年以上前に形成されたとされる。太田によると、明治時代以前は神奈備の考えに基づき、潟は自然物の恵みに対する感謝や水害に対する畏怖の念を以て住民に認識されていたものの、明治時代以後は治水技術の向上により「役に立たない不毛の地」として認識されていたと考えられている¹⁵⁾。

1911年前後には現在より大きい湖面を有し、周辺集落住民によって潟の湖底の泥土を利用した稲作やカモ・小エビ・ヨシなど多様な自然物の採取が行われていた¹⁶⁾。しかしながら1961年に治水のため新井郷川排水機場が完成し、福島潟及び新井郷川の水位が著しく低下したことや、回遊魚や汽水・海水魚の移動経路が断絶されたことなどによって漁獲高が低下したほか、干拓の

過程で潟は大規模な湿原となった¹⁷⁾。

1975年に国営干拓事業が竣工したものの、福島潟の多面的機能への着目により、現在までに約200haの水面が残された¹⁸⁾。また、1980年代後半には、旧豊栄市により、水の駅「ビュー福島潟」、無料休憩施設「潟来亭」、野鳥観察舎「雁晴れ舎」などの地域活動の拠点施設や、「自然学習園」や「遊潟広場」などを一体とした「水の公園 福島潟」が整備され、現在に至るまで多岐にわたる地域活動の基盤となっている¹⁹⁾。

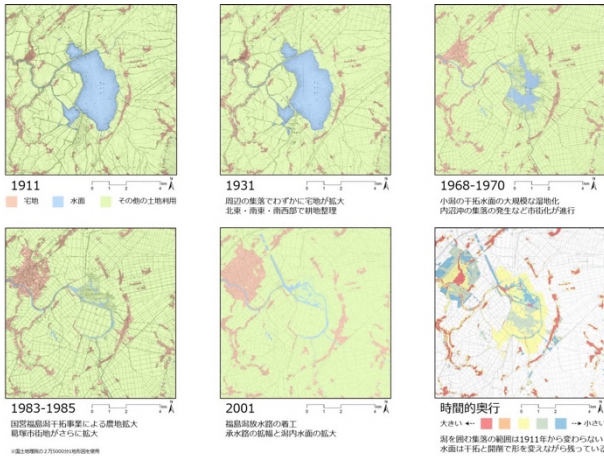


図 3.2 福島潟の湖面と土地利用の変遷²⁰⁾

3.3 福島潟における人々の地域活動

現在の福島潟においては、規模の違いはあるものの、多くの地域活動団体が活動している。旧豊栄市による「福島潟自然生態園整備事業」（1992～1997年）が実施され、地域文化活動・観光の拠点として旧豊栄市によって1997年に整備された施設「水の駅ビュー福島潟」の開館に先立っていくつかの地域活動団体が発足したほか、開館と同時に、定期的な環境調査などを実施するねっとわーく福島潟が発足し、2002年にNPO法人化した⁷⁾。ビュー福島潟は自然と文化を包括した「自然文化」というコンセプトのもと、学校向けの環境学習や案内会などを行っている。また各地域活動団体は、菜の花畑の迷路や潟舟の乗船体験、昆虫・植物・野鳥の観察会など、潟の環境保全活動や潟を市民と一緒に楽しむ活動を行っている。これらの地域活動団体は、多くのメンバーが新潟市北区の住民であり、構成メンバーの高齢化による活動の縮小が懸念されている。地域活動の中心的役割を担うねっとわーく福島潟の現在の会員数は約150人である⁷⁾。また、多くの団体や地元自治会は、市や市の指定管理者が福島潟の管理運営について広く意見を聞く場である「福島潟雁晴れ協議会」や、毎年9月23日に福島潟の自然文化の普及啓発を目的として行われる「福島潟自然文化祭」に参加しており、官民一体となった運営が行われていることが特徴的である¹⁹⁾。

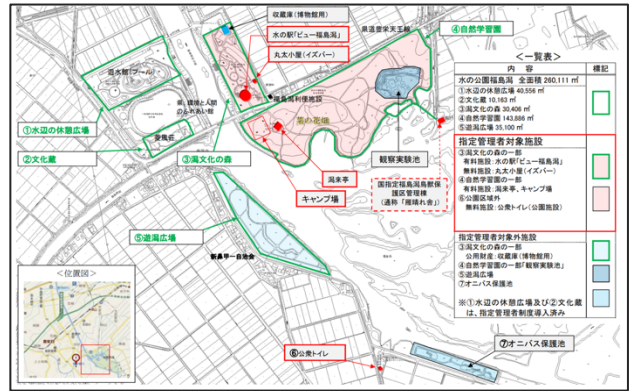


図 3.3 福島潟の周辺の指定管理対象の施設とその位置関係²¹⁾
(図中赤枠の施設は福島潟みらい連合が管理する施設)

4. 福島潟の地域活動の調査

4.1 ヒアリング調査の方法

表 4.1 おこなったヒアリング調査とその内容

日付 (2018年)	対象者	ヒアリング内容	
		地域活動に関する内容	風景に関する内容
9月7日	新潟市北区産業振興課	・福島潟の位置付け ・周辺施設の管理運営 ・自然文化基金などの予算 ・課題や展望について	-
9月8日	福島潟ヨシあし和紙の会	・活動経緯および概要	-
9月9日	福島潟めぐみの会	・活動経緯および概要	-
	ねっとわーく福島潟	・福島潟の活動について	-
9月12日	鳥影会	・活動経緯および概要	-
	地元農家	・農家としての活動の概要	-
	かたごはんの会	・活動経緯および概要	・現在や昔の風景について
11月15日	ねっとわーく福島潟	-	・現在や昔の風景について
	福島潟めぐみの会	-	・現在や昔の風景について
	潟来亭管理人	・活動経緯および概要	・現在や昔の風景について
	レンジャー職員	・活動経緯および概要	・現在や昔の風景について
11月16日	レンジャー職員	・活動経緯および概要	・現在や昔の風景について
	新潟市北区観光協会	・運営の概要 ・福島潟との関わり	-
	新潟県立環境と人間のふれあい館	・運営の概要 ・福島潟との関わり	-
	地元住民	-	・現在や昔の風景について
	潟舟の会	-	・現在や昔の風景について
11月17日	新潟市北区観音寺 コミュニティ協議会	・活動経緯および概要	・現在や昔の風景について

福島潟における地域活動や、地域活動を行う人々が見ている風景を把握するため、ヒアリング調査を行った。対象はできるだけ活動の種類に偏りがないようにするため、新潟市が福島潟の管理運営に関して意見を聞く場である「福島潟雁晴れ協議会」や、福島潟における最も大きな行事である「福島潟自然文化祭」の実行委員会に所属しているなど、福島潟と積極的な関わりがある団体を中心に選定した。

福島潟における地域活動に関しては、それぞれの活動の経緯や内容等について、福島潟の風景に関しては、同一の対象者に昔

の風景、今の風景、変化した風景について聞き取りを行った。地域活動と風景に関するヒアリングを行う場合は、それぞれの質問を区切って行った。ヒアリングは対面方式で約45分間とし、福島潟周辺の地図と福島潟における活動団体のリスト、および活動団体が活動していた期間の年表を提示して行った。

4.2 ヒアリング調査の結果

ヒアリング調査の結果から、福島潟における地域活動の特徴をまとめると、(1)旧豊栄市時代からの行政の積極的な地域活動支援、(2)住民主体の公園の管理、(3)潟を中心とした自然文化活動の連帯感の3点が挙げられる。

(1) 旧豊栄市時代からの行政の積極的な地域活動支援

ビュー福島潟が完成した1997年当時、市の職員や地元の学校の教員であったねっとわーく福島潟のメンバーなど、専門的な知識や市民活動のノウハウを持つ人々が立役者となり市民を巻き込んで活動を行ったことで、地域活動が活発化したとされる。

1997年前後にできた地域活動団体は、拠点施設であるビュー福島潟の開館に合わせて旧豊栄市の支援で作られ、旧豊栄市やねっとわーく福島潟に育てられてきたもので、活動の補助金など行政の手厚い支援が継続的な活動に繋がったと言える。それ以降にできた団体は既存の団体から派生したものが多く、和紙を作る会など以前は福島潟になかった新しい文化活動を行っている団体も複数ある。

財政面では、自然保護や文化の発展のための基金として、基金への寄付金に即して市も基金を積み立てるという仕組みの福島潟自然文化基金という制度も設けているほか、ねっとわーく福島潟が行っている潟の環境保全・普及活動に対して経団連などの多くの民間団体から補助金も助成されており、これまでは比較的規模に即した財政状況であったと言える。

(2) 住民主体の公園の管理

新潟市北区の他の公園は埋立地等の市有地の再利用で整備されたものが多いが、水の公園福島潟は旧豊栄市が潟という元々存在した場所を地域住民の意見を取り入れ公園として整備したという経緯がある。干拓の過程で福島潟をどうしていくべきかという議論が活発になり、現在多くの地域活動の拠点施設となっているビュー福島潟や潟来亭の整備に繋がったとされる。地域活動団体の数は新潟市北区でも福島潟が一番多い。

近年は福島潟にあるほとんどの施設や公園は市民団体や企業、地元自治会が新潟市の指定管理者となっているが、指定管理者制度を導入する以前からも市が自治会や住民と契約を結んで管理委託していた。市の直営のときよりも指定管理者制度を導入してから、ビュー福島潟の職員と地域活動団体の距離が近づき、地域活動団体の活動の自由度が増したとされる。

特に多くの拠点施設の指定管理者となっている福島潟みらい連合はNPOねっとわーく福島潟と中越クリーンサービス株式会社、株式会社新潟フジフィルムの3団体の連合である。レンジャー職員は主に潟の案内や観察会の主催、園地管理を行っている職員であり、福島潟みらい連合から雇用されている職員という形になっている。ねっとわーく福島潟には小さな部会が数多く存在し、2社とねっとわーく福島潟の部会、およびレンジャーを含む運営職員の集合体を福島潟みらい連合とみることできる。ねっとわーく福島潟は潟の案内などの自然関係の活動を中心に行う団体として立ち上がった団体である。

(3) 潟を中心とした自然文化活動の連帯感

それぞれの地域活動団体の活動内容は幅広い。活動団体のメンバーは自らがそれぞれの活動を楽しみつつ、福島潟やこの周辺地域の自然文化を後世に継承するべく活動している。自由に使うことができる地域活動拠点施設であるビュー福島潟や潟来亭にはそれぞれ個性があり、幅広い地域活動に大きく貢献している。

福島潟自然文化祭などのイベントの際には、基本的には市、自治会、コミュニティ協議会、各地域活動団体、地域の学校の生徒、ふれあい館などの周辺施設が一緒になってイベントを盛り上げようと協力をする。どの団体も活動内容は大きく異なるが、基本的には同じ建物や同じイベント、同じ潟を見ているという点で連帯の感覚があると考えられる。

5. 福島潟の風景の調査と分析

5.1 ヒアリング結果の分析

福島潟における現在の風景や、記憶の中の風景に関する聞き取りから、特定された風景について述べられている情景のまとまりに注目して、そのまとまりを1つの風景要素とする。これらの風景要素を、A.空間の規模、B.空間の構成、C.場所の感じ、D.場所の出来事に分類し、ヒアリングで得られたテキストの中から抽出する。例えば、「潟来亭の長い縁側です、好きな場所は、屋根が深くかかっている、とても静か。たまに子どもたちが座っています。」では、A.空間の規模(長い縁側)、B.空間の構成(屋根が深い)、C.場所の感じ(とても静か)、D.場所の出来事(子どもたちが座る)と抽出できる。

以上の方法によって、福島潟の風景に関して80要素の風景が得られた。KJ法によって類似するこの風景要素をまとめ、まとまりに名前をつけた。この結果から、(1)水の流れや浚渫による湖底の変化、(2)過去の潟の水面の様子、(3)潟の水の変化、(4)治水のための施設に関する風景、(5)潟の野地(ヨシによって地面が引き上げられてきた湖沼の中の陸地)、(6)潟の植物、(7)潟の音、(8)潟の動物、(9)時空間の流れによる変化、(10)むかし

表 5.1 風景要素とその発言者

大分類	小分類	D	この地域に 長く住んでいる人			1997年より後になって 福島潟で活動を行っている人								その他			
			1997年以前か ら潟と接してき た人		R氏	M氏	S氏	K氏	L氏	G氏	N氏	O氏	U氏		T氏		
			潟のそ ばに住 む人	周辺地域に 住んでいる人													
I. 潟の水に関係する風景	(1)水の汚れや 浚渫による湖 底の変化	A-12	●														
		B-20	●														
		B-22	●														
		B-23	●														
	(2)過去の潟の 水面の様子	D-10															
		A-10		●	●							●	●				
		B-21	●														
		D-15											●				
	(3)潟の水の 変化	D-19		●									●				
		C-8	●		●												
		C-9	●														
	(4)治水のため の施設	A-13		●													
		A-14	●														
		B-25	●														
		B-26	●														
		D-14	●														
D-16										●							
D-17		●										●			●		
D-18												●					
II. 潟にある 要素に 関係する 風景	(5)潟の野地	A-11										●					
		B-18										●					
		B-19											●				
	(6)潟の植物	A-6		●	●												●
		B-15		●	●												
		D-4												●			
	(7)潟の音	B-10	●					●						●			
		B-11												●			
		B-12												●			
	(8)潟の植物	A-1	●	●	●												
A-2			●														
B-1		●						●									
B-3																	
B-4																	
B-5		●		●													
B-6		●															
B-7				●													
B-8		●							●								
(9)時空間の流 れによる変化	B-9							●									
	D-1			●									●		●		
	D-2												●				
	D-3													●			
III. 周辺 の様子に 関係する 風景	(10)むかしの 潟の印象	A-3		●	●												
		A-9		●	●												
		A-15			●												
		B-2			●												
	(11)自然現象	B-13	●														
		B-24	●														
		C-2										●					
		C-4											●				
		C-7			●	●							●	●			
		C-1											●				●
		C-5				●											
		C-6															
		C-10				●											
(12)潟の生業	C-11			●													
	A-16		●														
	A-17		●														
	B-28															●	
	B-29			●												●	
	B-30			●												●	
	B-31			●												●	
(13)潟の活動 や文化	D-20		●														
	D-21	●														●	
	B-27			●													
	D-5			●													
	D-6	●		●													
	D-7			●													
	D-8			●													
	D-9			●	●												
IV. 潟と人間 の活動や 関わりに 関係する 風景	D-13			●													
	C-3										●						
	A-4														●		
	A-5														●		
	A-7														●		
	A-8														●		
	B-14	●									●						
B-16				●													
B-17																	
D-11				●											●		
D-12																●	

の潟の印象、(11)自然現象に関する風景、(12)潟の生業、(13)潟の活動や文化の風景の13の小分類にまとめることができた。この風景要素のまとまりの小分類について、さらに関連あるものどうしをまとめて名前をつけ、それらの関係についてまとめた(図5.1)。その結果、福島潟の風景として、I. 潟の水に関係する風景、II. 潟にある要素に関係する風景、III. 周辺地域の風景に関係する風景、IV. 潟と人間の関わりに関する風景の4つに分類することができた。

I. 潟の水に関係する風景

潟の水に関係する風景として、(1)水の流れや浚渫による湖底の変化、(2)過去の潟の水面の様子、(3)潟の水の変化、および水に関係するものとして(4)治水のための施設に関する風景が挙げられた。これらの要素の多くは潟のすぐそばに住む新鼻甲一自治会から挙げたものである。

II. 潟にある要素に関係する風景

潟にある要素に関係する風景として、(4)治水のための施設、(5)潟の野地、(6)潟の植物、(7)潟の音、(8)潟の動物、(9)時空間の流れによる変化のうち具体的なものに関する風景が挙げられた。IIの要素はほとんどの人から偏りなく挙げられたものの、それぞれの小分類には偏りがあることが分かった。例えば、堤防に関する要素の多くは潟のすぐそばに住む新鼻甲一自治会から挙げられ、(5)潟の野地に関する要素や(8)潟の動物のうち野鳥の行動に関する要素は、それぞれ1997年より後になって携わるようになったレンジャー職員や、福島潟めぐみの会の、潟舟の会から挙げられた。

III. 周辺の様子に関係する風景

周辺の様子に関する風景として、(9)時空間の流れによる変化のうち抽象的なもの、(10)むかしの潟の印象、(11)自然現象に関する風景が挙げられた。これらの要素の多くはこの地域に長く住んでいた潟来亭管理人や葛塚東小学校区コミュニティ協議会が多く挙げた。

IV. 潟と人間の関わりに関する風景

潟と人間の活動や関わりに関する風景として、(12)潟の生業、(13)潟の活動や文化の風景が挙げられた。(13)の活動や文化に関する要素は潟舟の会が多く挙げ、(12)の潟の生業の様子の要素はこの地域に長く住んでいた潟来亭管理人や葛塚東小学校区コミュニティ協議会が多く挙げた。

6. まとめ

本研究では福島潟における地域活動とあわせて、地域活動を人々の見ている風景やその記憶に関してヒアリング調査を行った。これらのヒアリングの結果として、まず地域活動の内容にかかわらず、潟のそばに住んでいる人は湖底の土砂や潟の水質、堤

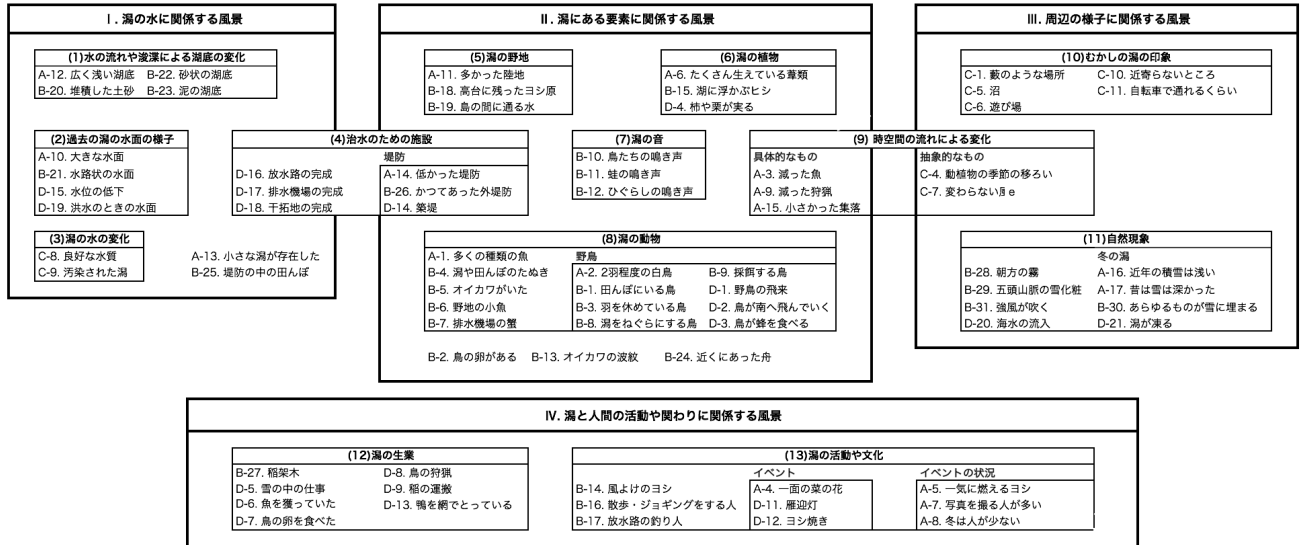


図 5.1 福島潟の風景要素の分類

防などの「潟の水についての要素」を多く挙げた。これは福島潟で発生した過去の幾多もの水害の記憶によってこの分類の風景要素の想起がなされていると考えられる。また、ビュー福島潟などの地域活動拠点施設が建設された1997年より後に福島潟に携わるようになった地域活動団体の人々やレンジャー職員は、野地や野鳥、潟の音などの「潟にある要素」を多く挙げた。これは福島潟で地域活動を行うようになった背景に、例えば、湖沼の植物の研究を行った経験があった、野鳥の観察が好きであったなど、潟にある要素と関連があったからであると考えられる。さらに、周辺地域に住む人々は、むかしの潟の印象や自然現象、潟での活動など「潟と人間の関わりや周辺の様子についての要素」を多く挙げた。これはビュー福島潟などの地域活動拠点施設が建設された1997年より数十年前に盛んであった潟での生業が身近にあったことが影響していると考えられる。

本研究の今後の展望としては、地域活動や風景の見方について新潟県内の他の潟との比較・考察を行うなどといった発展が考えられる。

<参考文献>

- 環境省：「ラムサール条約全文の日本語版」, https://www.env.go.jp/nature/ramsar/conv/treaty/RamsarConventionText_JP_rev171222.pdf, 2018/12/26 閲覧
- 環境省：「湿地の保全に関する解説書（「世界湿地の日」ファクトシート1〜8日本語版）」, https://www.env.go.jp/nature/ramsar/conv/leaflet2016/wwd2015_fact_sheet3.pdf, 2018/12/26 閲覧
- 新潟市：「新潟市潟のデジタル博物館」, <http://www.niigata-satokatata.com/learn/>, 2018/12/26 閲覧
- 新潟市：「潟環境研究所の概要」, https://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/kankyo/kataken/kataken_gaiyou.html, 2018/12/26 閲覧

- 新潟市潟環境研究所・特定非営利活動法人GS デザイン会議：「新潟市ラムサール条約都市・新潟構想研究委託業務報告書」, 第1章 p. 1, 2018
- 斎藤良吉：「新潟県福島潟の歴史地理学的研究」, 人文地理, 13巻3号, pp. 203-220, 1961
- 佐々木葉、安達幸輝、外山実咲、橋本航征、渡邊拓巳、小澤広直：「新潟市における潟をめぐる市民活動の特徴」, 土木計画学研究・講演集 Vol. 57, 21-04, pp. 5-6, 2018
- 新潟市地域・魅力創造部 潟環境研究所事務局：「新潟市潟環境研究所活動報告書 - 潟と人との未来へのメッセージ -」, 2017
- 新潟市潟環境研究所：「みんなの潟学」, 2018
- 山口美緒、横張真、渡辺貴史：「住工混在地域における居住者の心象風景の解明」, 日本都市計画学会学術研究論文集, 36巻, pp. 745-750, 2001
- 小浦久子、舟橋國男、奥俊信、本多道宏：「日常風景にみる住宅市街地の環境特性に関する基礎的研究」, 日本都市計画学会学術研究論文集, 32巻, pp. 745-750, 1997
- 前掲5), 第2章 p. 1
- 新潟市・潟のデジタル博物館：「福島潟」, <http://www.niigata-satokatata.com/learn/fukushimagata/>, 2018/12/28 閲覧
- 前掲8), p. 49
- 太田和宏：「新潟市西区に関する潟と人の共存(里潟)について～潟の歴史的関わりについて(佐潟を中心として)～」, 潟環境研究所, p. 86, 2014
- 新潟市教育委員会：「福島潟地域民俗緊急調査報告書 福島潟-1970-」, pp. 51-68, 1970
- 前掲6), pp. 218-219
- (株)グリーンシグマ：「福島潟の環境保全と地域活性化手法の研究」, p. 40, 1988
- 新潟市：「水の公園福島潟 水の駅『ビュー福島潟』等指定管理者業務仕様書」 pp. 14-16, 2018
- 前掲5) 第2章 p. 4より引用
- 前掲20), 別紙1, p. 3より引用